

第4回 防災支援人材育成プログラム策定会議 議事録

日時：令和8年2月28日（土）10:00～12:10

場所：防災科学技術研究所 第1ユニット棟1階 第3会議室

出席：（策定会議委員 五十音順）笠島昇治、草間清那、桑野あゆみ、笹島俊秋、柴田美智子、田中香織、長屋和宏、堀内隆博、松崎貴志、森剛勇、吉田淳、山本美和（計12名）
（オブザーバー）久保英也、（事務局）李泰榮、今泉賢吾、王尾和寿、若泉政人

欠席：天野一男、井手よしひろ、野上大介

オンライン参加：なし

【議題】

1. 第3回会議の振り返り
2. 議事録の作成と公開に関して
3. 防災支援人材育成プログラム（セッション4）の内容検討
4. 事務連絡

【配布資料】

1. 第3回防災支援人材育成プログラム策定会議振り返り（地域防災ファシリテーション「形」、セッション3概要：観察と信頼構築、カリキュラム、名簿）
2. 第3回防災支援人材育成プログラム策定会議議事録（発言者名記載）
3. セッション4：災害時の困ることと解決策を考える・説明資料
4. セッション4：災害時に困ることと解決策について考える・ワークシート案

議題1 第3回会議の振り返り 省略

議題2 議事録の作成と公開に関して

- ・議事録の発言者の氏名を記載し公開することについて協議し、同意が得られた。

【プログラムの概要】

- プログラム名「地域防災ファシリテーター育成プログラム」
- プログラム作成の目的：自主防災組織や自治会から防災活動をやりたいけれども、どこから手をつけてよいかわからないという相談を防災士会が受けた際、自主防災組織等に派遣する支援者（地域防災ファシリテーター）を育成すること
- プログラムの時間は、座学×2（各15分）、演習×1（40分）、事前及び事後評価（各5分）、演習への切り替え（10分）＝合計90分
- プログラムの説明が15～20分で終わられるように、説明資料は10ページ程度にする
- プログラムは一日で実施完了できるものにする ※複数日の実施は、内容を忘れる可能性があるため

配布資料について事務局が行った説明内容は以下の通りである

- ① セッション4概要（ねらい、構成、学習目標、学習内容）
- ② 地域防災ファシリテーション「形」：3. プロセスデザイン（2）目標設定、（3）解決策検討
- ③ セッション4・パーツ 4-1「災害時に地域で困ることを学ぶ」
 - 4-1で学ぶこと：災害時に地域コミュニティが困ることを学ぶ
 - 困ること1：災害時に困ることとは
 - 困ること2：災害時に困ることを見つけるためには
 - 困ること3：災害時の事態の流れを理解する
 - 困ること4：発災時の条件により災害時に困ることは変化する
 - 困ること5：時間軸で地域の困ることを整理する
 - 困ること6：災害時に困ることについてみんなで話し合う
 - 困ること7：空間軸で地域の困ることを整理する
 - 困ること8：災害時に困ることを現地で確かめる
 - 困ること9：災害時に地域で困ることの検討事例
 - 困ること10：困ることを解決するため自助・共助・公助で取り組む
 - 4-1で学んだこと：災害時に地域コミュニティが困ることを学ぶ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
全体（ワークシート）	●（田中委員）ワークシートの使い方として、例えば実地に地域を見に行つて気づいたことを記入させて、見に行く前との違いを振り返るようにするとよいものになると思う	●各セッションのワークシート間の継続性が保たれるように見直す
4-1で学ぶこと	●（長屋委員）困ること7の空間軸で地域の困ることを整理した後に、災害時に困ることを話し合う、その後に現地に行つた方がよいのではないか	●ご指摘の通り、困ること6（災害時に困ることについてみんなで話し合う）と7（空間軸で地域の困ることをを整理する）を入れ替える
困ること1	●（長屋委員）社会特性で「過疎化→共助力の低下」との説明だが、能登半島地震の被災地など共助力は強い。考え方としては共助力の衰退ではないか	●「過疎化→担い手の不足」に修正する
困ること3	●（堀内委員）発災後の事態の流れは、実態に合わせステップを踏んだ形で整理した方がよいのではないか ●（堀内委員）事態の流れを議論するとき、インフラの復旧に要する時間などがあるとよい	●資料集（作成中）でタイムラインの例を掲載している。身の回りや地域でどのようなことが起こるのかを細かく整理している ●ページの最下段に災害シナリオという考え方を紹介している。シナリオとして最悪の状況の中でどうするかを考えておけば、復旧後は問題が解決されている。参考として復旧目安の情報はあつて

資料ページ	委員意見	検討事項等
	<ul style="list-style-type: none"> ●（久保先生）激甚災害では、困ることは建物倒壊や通行不能、延焼火災など同時に起こる。そうした状況では、例えば、避難所という「最後の砦」をターゲットにして、避難所運営での課題から避難していく人というように逆時間で考えていくこともよい 	<p>よい</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゴール＝目的を設定してすすめることもよいが、みんなで地域の社会特性から困ることが議論できる力を育てることにファシリテーターの役割でもある
<p>困ること 4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）困ることは時間条件によって変化するとあるが、天気も条件に入るのではないか ●（長屋委員）困ることが真ん中にあるが、時間条件があり、ライフライン被害があつて困ることがある、というレイアウトがスッと理解できるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●（王尾）ご指摘に沿って修正する
<p>困ること 6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）（4－1に対して述べたように）時間軸、空間軸で困ることを整理した後に話し合うということであれば、左側の地図を持った女性は空間軸のことを言っているが、他に時間軸についても吹き出しで説明される必要があるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●（王尾）ご指摘に沿って修正する
<p>困ること 7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）真ん中の地図は地名が読めるので、読めないものにした方がよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハザードマップに差し替える。他に、吹き出しの内容が被害なので、困ることに修正する

つづいてパーツ 4－2「困ることに対する解決策を学ぶ」について、事務局が行った説明内容は以下の通りである

④ セッション 4・パーツ 4－2「災害時に困ることに対する解決策を学ぶ」

- 4－2で学ぶこと：災害時に地域コミュニティが困ることを学ぶ
- 解決策 1：災害時に困ることを解決する
- 解決策 2：災害時に困ることを解決するには
- 解決策 3：災害時の対応と平時の備え（地震災害の例）
- 解決策 4：災害時の対応と平時の備え（豪雨災害の例）
- 解決策 5：災害時の対応と平時の備え（地域資源の活用）
- 解決策 6：解決に役立つもの
- 解決策 7：対応をシナリオ（時間軸）で考える
- 解決策 8：対応を空間軸で考える

- 解決策 9：地域で困ることと解決策の事例
- 解決策 10：災害時の対応と平時の備えのまとめ
- 4-2で学んだこと：災害時に困ることに対する解決策を学ぶ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
全体（プログラム）	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）本プログラムのねらいは、地域コミュニティの効果的な防災活動を支援するための人材育成ということで、最終的なゴールとしては、「有事に対して強い地域を作る」ということではないか。避難所運営やマイタイムライン等は防災士も学んでおり、そうした「各論」に入っていくと、ねらいと違う方向に行くのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムで目指すのは、防災活動をやらなければならないけれど何をすればよいか分からないという地域コミュニティが、「住民自らが自分で問題意識をもって、自分たちで考え、解決できる」ようになることである。例えば、各論として避難所運営が課題の地域では、地域コミュニティが避難所運営マニュアルなどを参考に、活動を進めることが望ましいと考えている。防災活動を解決すべき課題を設定して取り組む「目的型」もありえるが、本プログラムは、地域の特性を調べながら取り組みを考えていく「伴走型」に該当する
全体（資料集、指導案）	<ul style="list-style-type: none"> ●（田中委員）プログラムの受講者から寄せられる質問への回答や注意することなどを資料集にまとめるとよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●そのようなことについては、「指導案」として作成していく予定。
全体（振り返り資料）	<ul style="list-style-type: none"> ●（笠島委員）これまでのセッションで議論した内容をたどれるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ●前回の振り返り資料が、説明した内容ベースになっているので内容を検討する。また、ワークシートも前回の議論から引き継ぐことができるような形式に修正する
解決策 3、4	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）地域の取り組みのゴールは、解決策 9（地域で困ることと解決策の事例）ではないかと考えるが、「災害時の対応と平時の備え（地震、風水害）」の各項目は、それぞれが大きなテーマなので、これらに焦点を当ててしまうと全体のゴールがぼやけてしまうのではないか ●（堀内委員）地域の防災力を高めるには、助ける人が何人いるかが重要 	<ul style="list-style-type: none"> ●「災害時の対応と平時の備え（地震、風水害）」のすべての項目を地域で解決することは難しいため、これらの中から、みんなで議論して優先順位を決めて一つ一つ解決策を考えようという趣旨で、事例（解決策 9）を 2 つ紹介している。しかし、解決策 3、4 の項目も知っておかなくてはいけないため説明している。これらをすべて地域で取り組んでくださいということではない
解決策 3、4	<ul style="list-style-type: none"> ●（田中委員）地域で取り組む項目に優先順位をつけて対策を練っていこうというのは、説明に加えてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の実情、社会的特性を踏まえた必要な活動をみんなで決めると下に一行入れる

資料ページ	委員意見	検討事項等
解決策 3、4	<ul style="list-style-type: none"> ●（笠島委員）地震（3）と風水害（4）で共通する部分を区分けすると理解しやすいのではないか ●（笠島委員）4-1の困ること3（災害時の事態の流れを理解する）でリスクシナリオ、災害シナリオが説明されているが、リスクマネジメントも必要ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の災害危険性をみんなで確認したうえで、対象災害を決めて課題と解決策を検討していくプロセスであるので、最初から災害種別の特定はしない ●リスクマネジメント（地域で起こりうる災害を特定し、災害時の課題を発見して対策を検討し、課題を解決する。（解決に向けた継続的な活動を含む））に関しては、現在行っているプロセス（災害を想定→課題を特定→解決策をみんなで議論）がそれに該当するので、セッション1でその説明をする。
解決策 5	<ul style="list-style-type: none"> ●（山本委員）介護施設・福祉施設が地域資源としてくくってあるが、これらの施設は利用者の避難計画などを策定し、利用者を守るので手一杯な状況。地域住民の受け入れを行うというような情報を出されることは問題発生につながる。要配慮者支援と施設の扱いは慎重に行う必要がある ●（柴田委員）介護職をしていたが施設は人手が目いっぱい状況。支援学校にも行っているが、施設と関わりのない方は、その子の特性が分からなため預かれない。とてもデリケートな問題がある。個人支援、個人経営のところは資機材も持っていない現状 ●（久保先生）日頃から地域が施設と連携できていない避難所、福祉避難所が多いと思う。名簿と行政、避難所がつながっているので避難所ベースで考えた方がよいと考える 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域内に民間介護施設があっても、ご指摘のように、必ずしも災害時に使える施設ではない。しかも、行政が協定を締結して福祉避難所に指定したとしても、すぐに使えるわけでもない。社会資源としての紹介はするが、その利用については、地域住民が介護施設や福祉施設を地域の社会資源として理解し、協力関係を結んでいくことを目指すことが、リスクガバナンスを作っていくといった本プログラムの重点要素である。 「地域にあるから使える」ということではなく、確認し、話し合っただけで災害時に地域に役立つもらえるような関係を作っていきたいという趣旨。ご指摘をふま扱いは慎重にする
解決策 6	<ul style="list-style-type: none"> ●（久保先生）地域と議論しながら地区防災計画（解決策10）など作っても、なかなか実際には役立たない。原因は災害の状況の把握に問題があるからではないか。「防災対策をリアルなものにするためにはどうしたらよいか」という目線で、地域の高齢者の状況を知る民生委員などにも参加してもらって議論することが必要だと考える。そう考えると「他の地区」の支援をしている場合ではないのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●解決策10に解決策の出口として地区防災計画が出てくるが、これが本セッションの最終的なゴールではない、かつ、議論結果をまとめる方法論の一つなので、本セッションでは削除して、次のセッションで実践知の共有の方法として紹介する。社会資源については、資料集（作成中）で「災害時に支援を必要とする人と必要な支援内容」を、高齢者や幼児、外国人など整理している。それを説明資料に出すようにする。社会資源について、もう少し理解できるようにする

つづいてパーツ4-3「演習」について、中央地学・王尾が行った説明内容は以下の通りである

⑤ セッション4・パーツ4-3「演習」

- 演習1：演習の目的
- 演習2：演習の手順
- ワークシートの記入例

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
演習2	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）ワークシートが、前回セッション（地域の自然特性、社会特性を調べる）の議論内容がなく、一般論を記入するようになっていると思う。前回セッションで見えた弱点をもとに、平時の備えがうまく機能するのかを分析する方がよいのではないか ●（長屋委員）発災条件が冬の夕方18時だと厳し過ぎて思考停止してしまうのではないか。ワークシートで半日までとあるので、そのあたりで暗いことによる問題、見えないなかで何が問題かを考えるようにした方がよいと思う ●（草間委員）「C 平時の備え」の矢印にグループで話し合うとあるが、何を話せばよいのか。一人一人書いたものをみんなでフィードバックしあうのか ●（久保先生）「A 災害時に困ること」は、時系列を入れると逆に選択しにくくなるので、困ることを20個くらい並べて選択する方がよいと考える。「B 災害時の理想的な対応」は、むしろ災害時に自分たちでできることを考え、それができないことがあるので、そのための準備を「C 平時の備え」で考える方がよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ●セッションごとのワークシートの分け方、関連付け方を見直す ●実際に18時に発災したらどうするかということを考えることも重要。平日の昼間発災など検討する ●みんなで話し合って平時の備えを考えて記入することなので矢印の方向が逆だった。修正する ●理想をみんなで考えた上で、その理想を実現するための備えを検討するので、できているところは考えず、できないこと、困ったことを整理するようにしたい。堀内氏のワークシートの意見もあり、時系列にとらわれず検討できるようにしたい

以上